

2014-10-2

馬のリンパ節

豚病理 板橋知子

提出機関: ユステュス=リービヒ大学(ドイツ)

患 畜: ウマ(サラブレッド種) 去勢、26歳

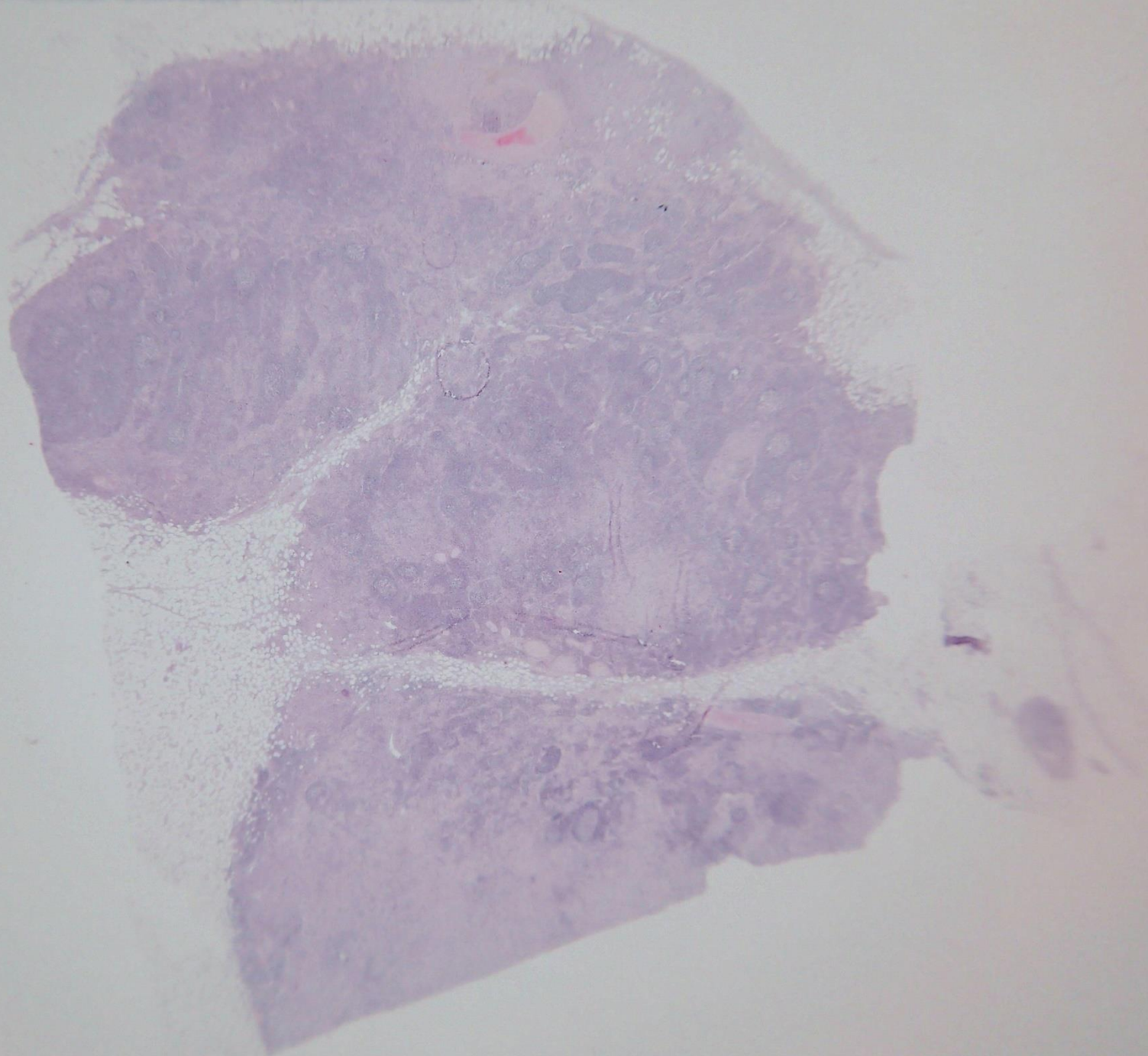
病 歴: 発熱、血尿、間欠的な疝痛を呈してから14日目に来院

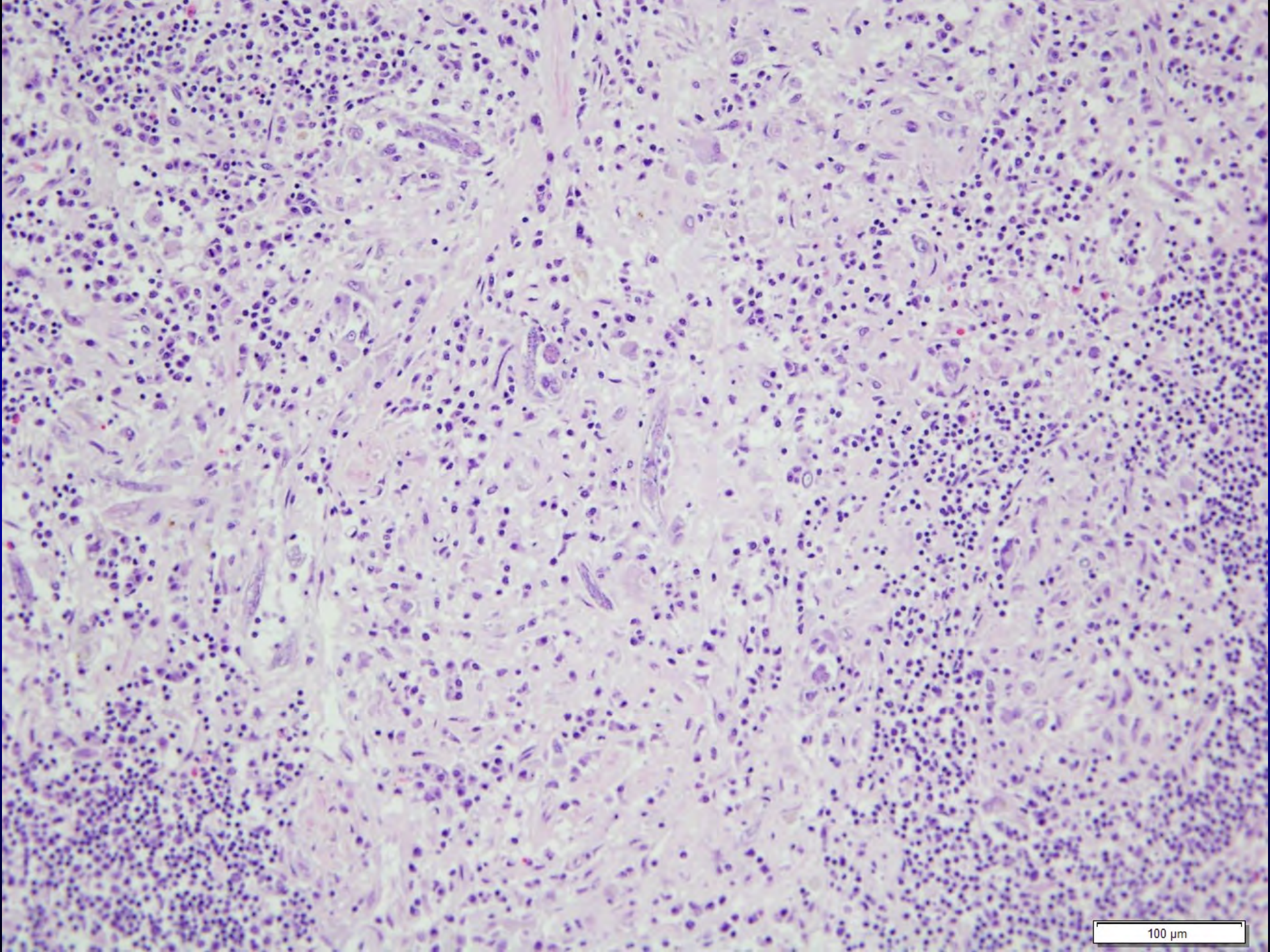
膀胱炎を疑い、抗生剤による治療を行ったが効果なし

超音波検査で腎臓頭側部に不規則な空洞を持つ直径30cmの腫瘍が認められた

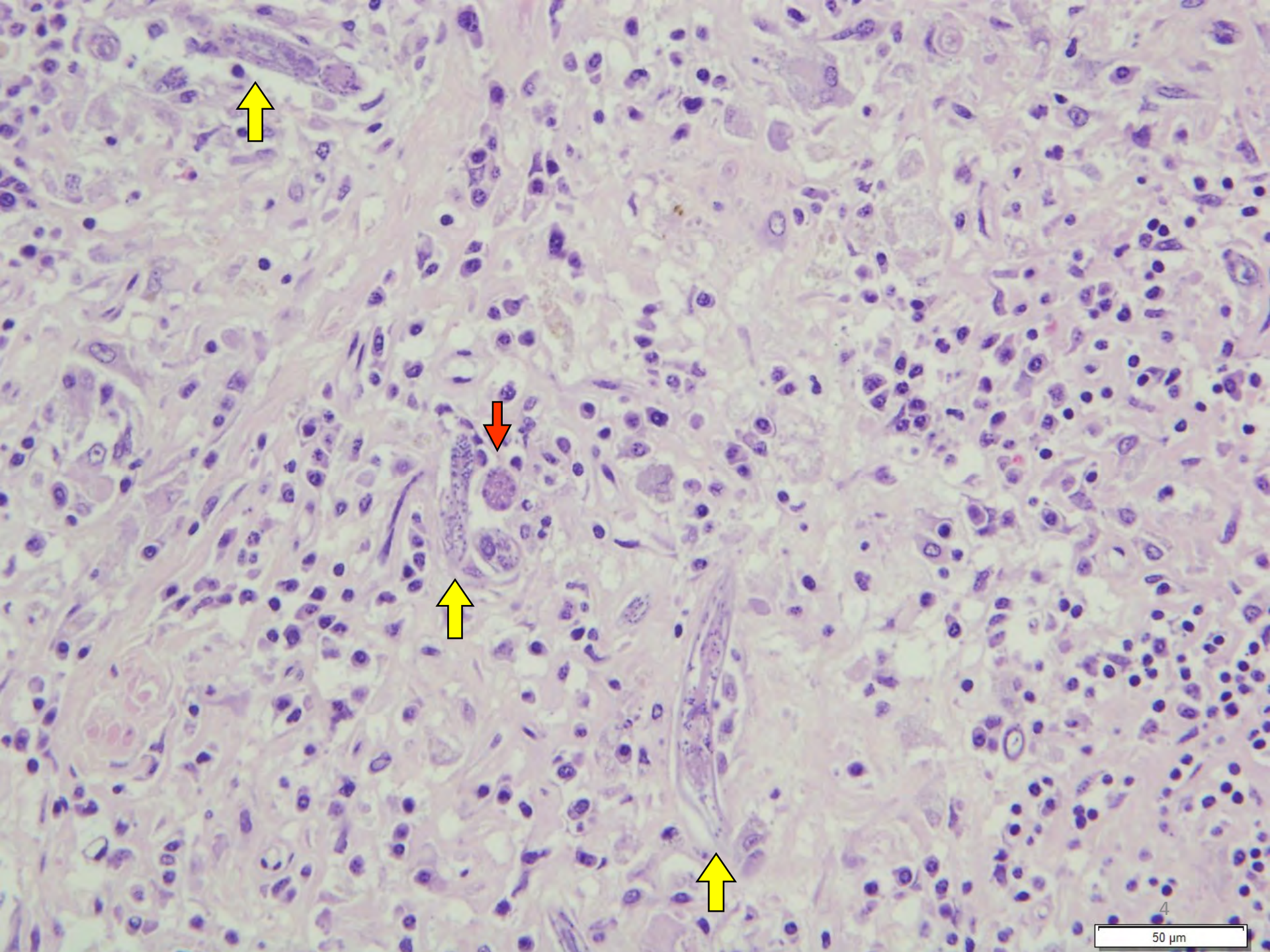
臨床兆候、去勢年齢および蹄葉炎があること、腎腫瘍の疑いがあることから安楽殺され、解剖に供された

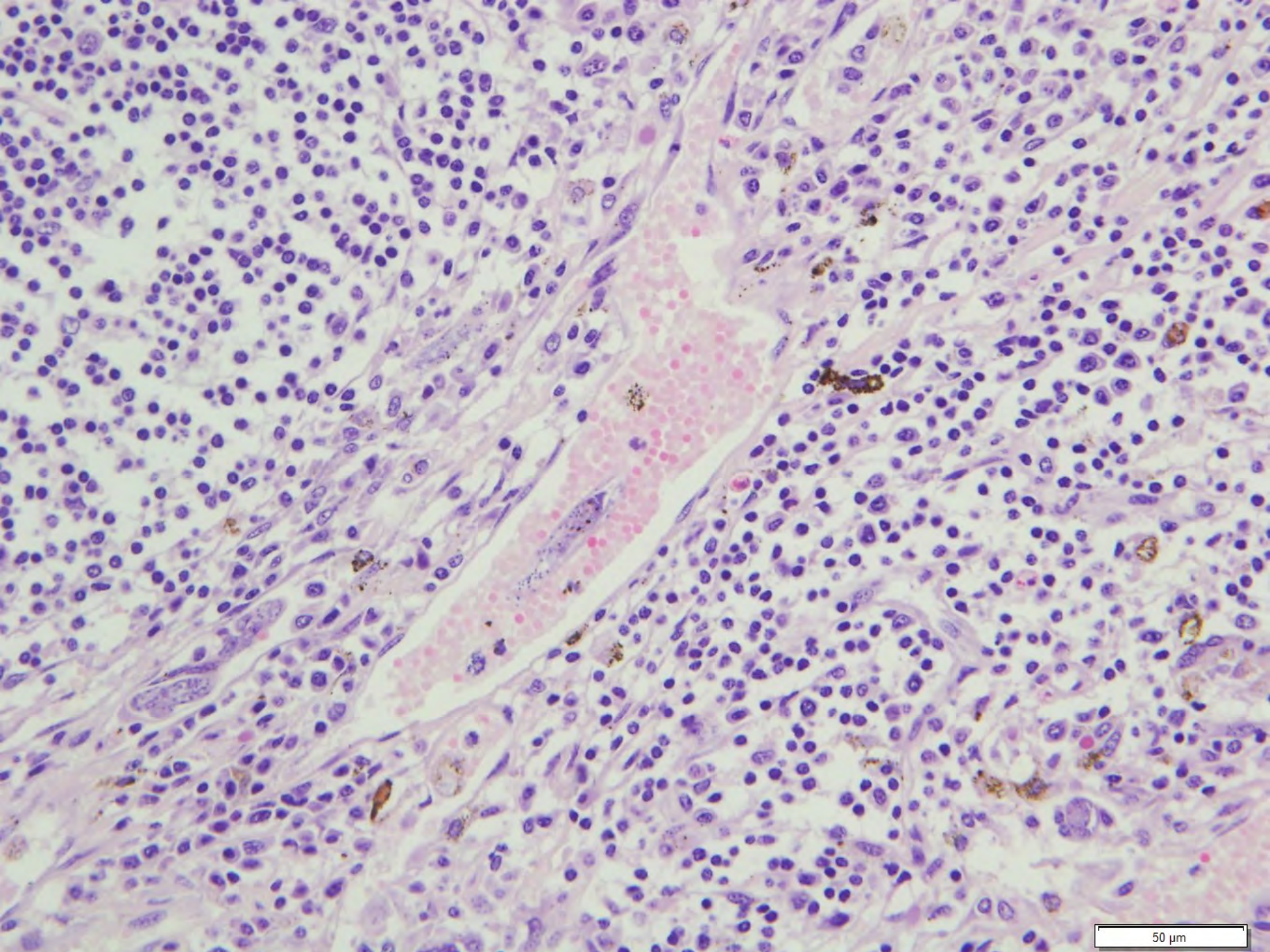
肉眼所見: 腎臓は高度に腫大し、硬く、実質には直径5~15cmの黄白色の硬い結節が多発性に認められた。腎盂は数mlの漿液性の液体で満たされていた。膀胱には血液が含まれていた。



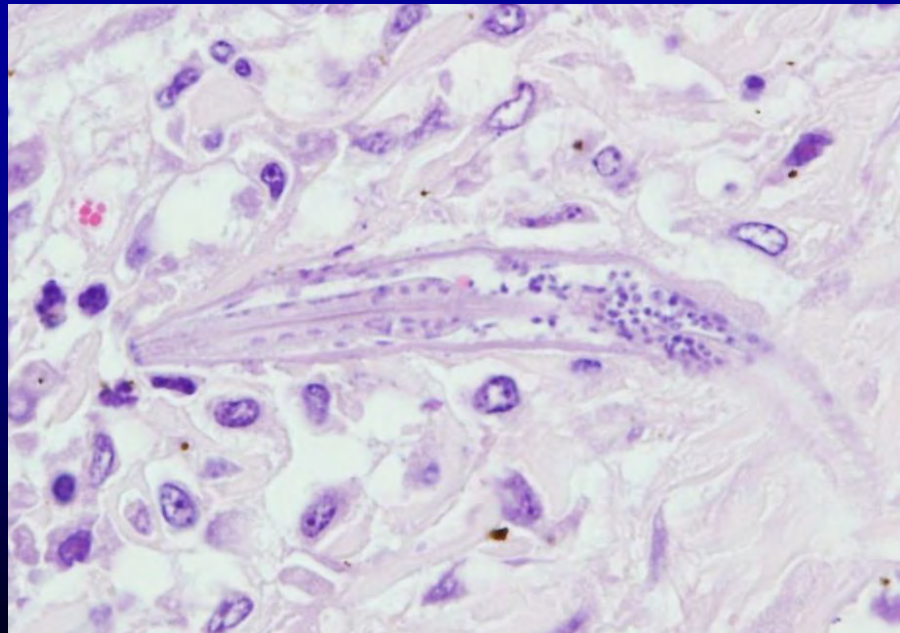
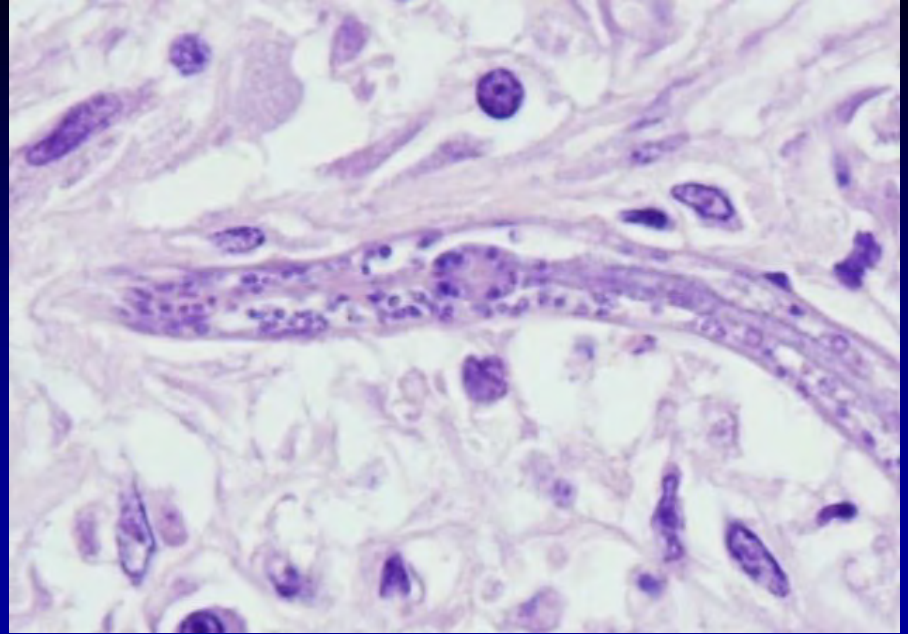
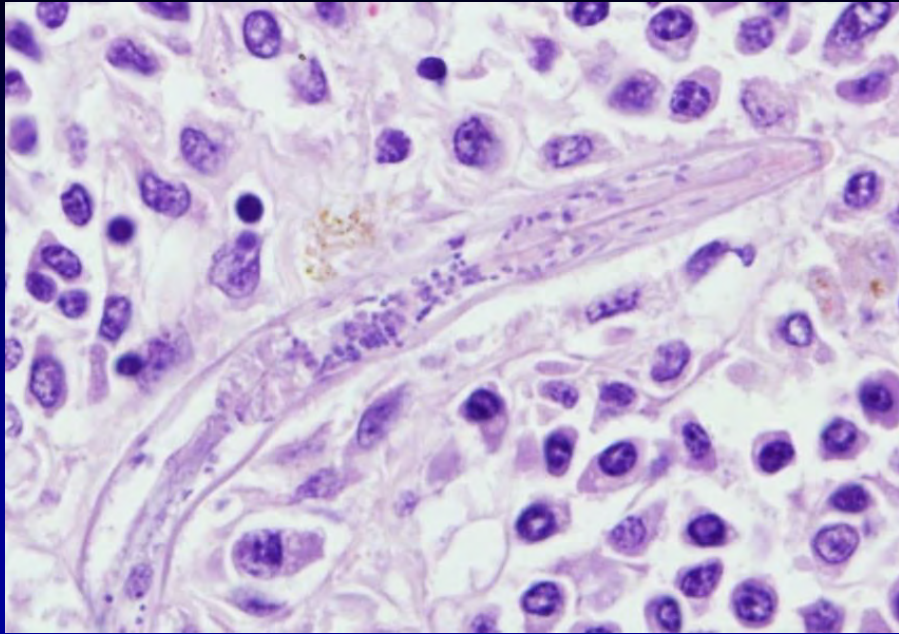


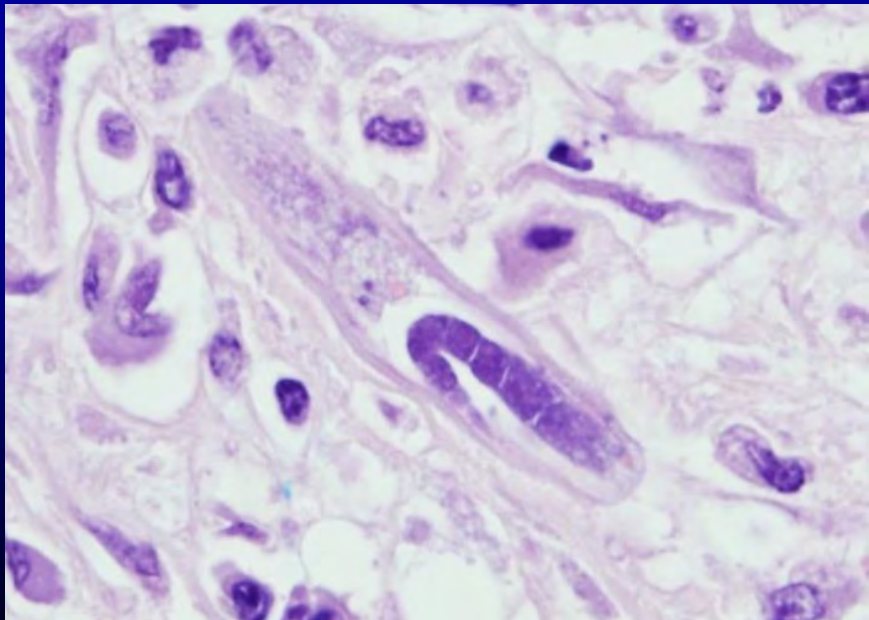
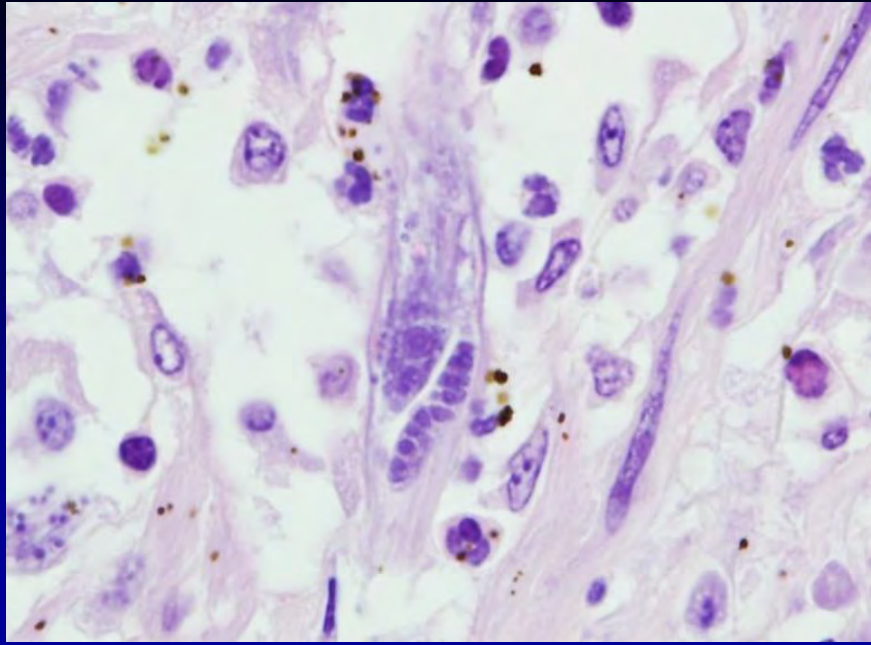
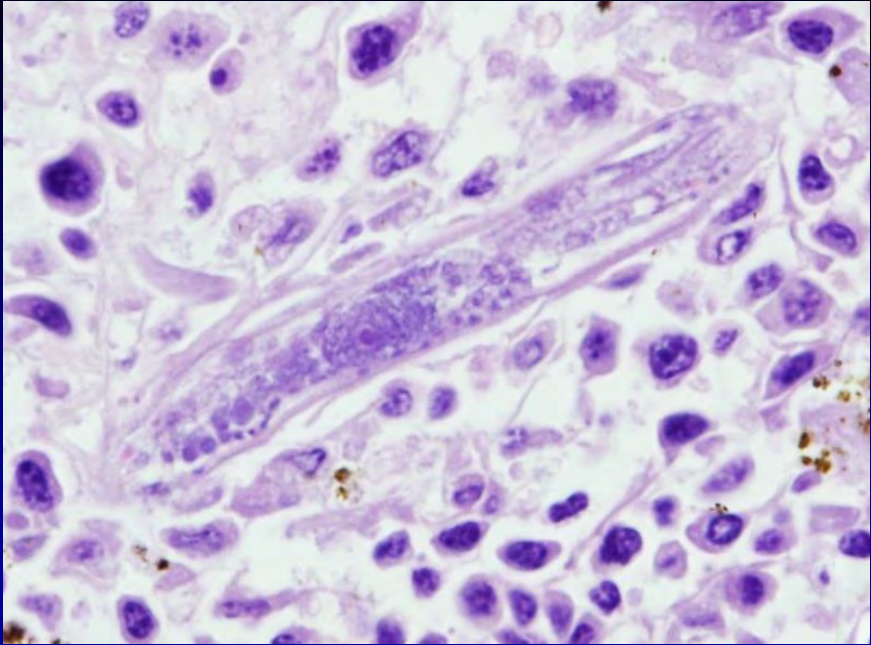
100 μ m

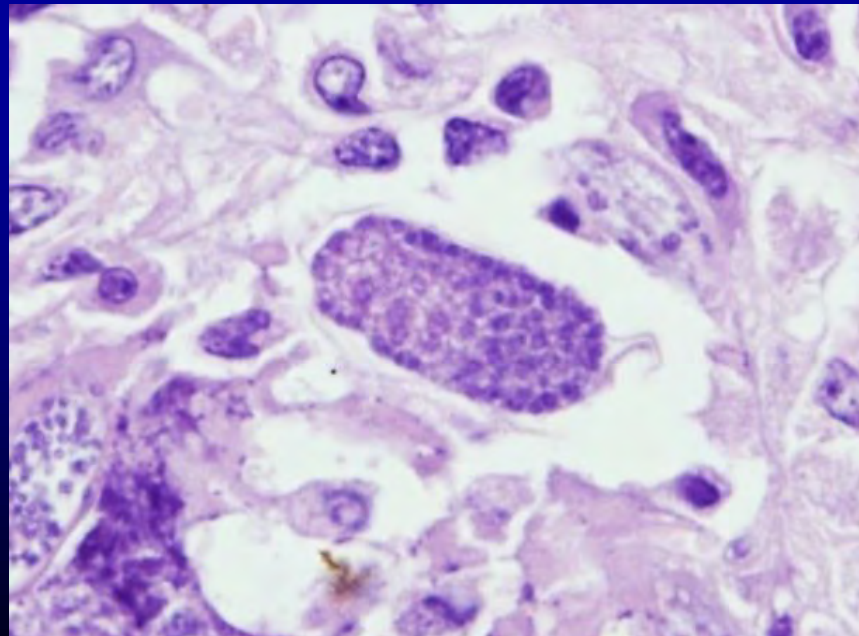
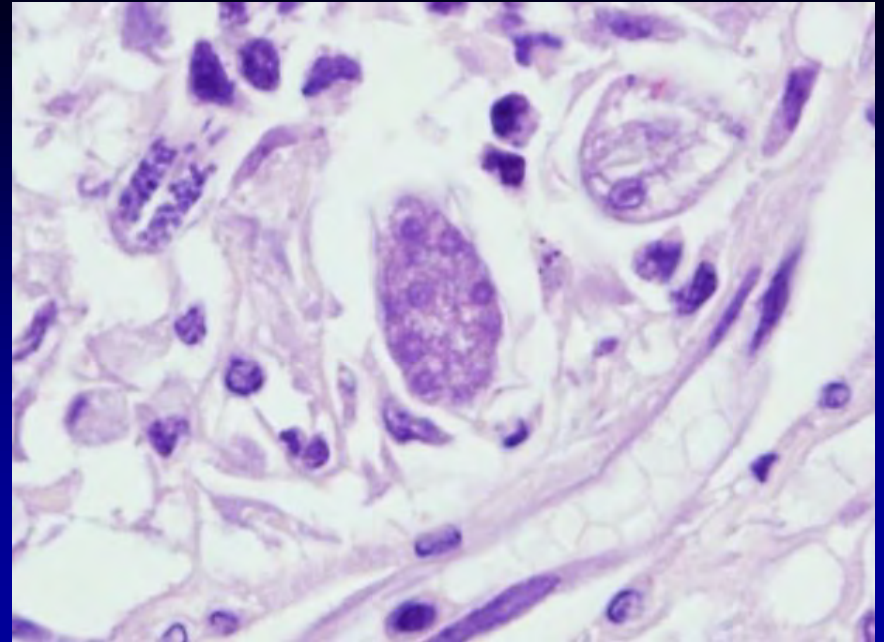
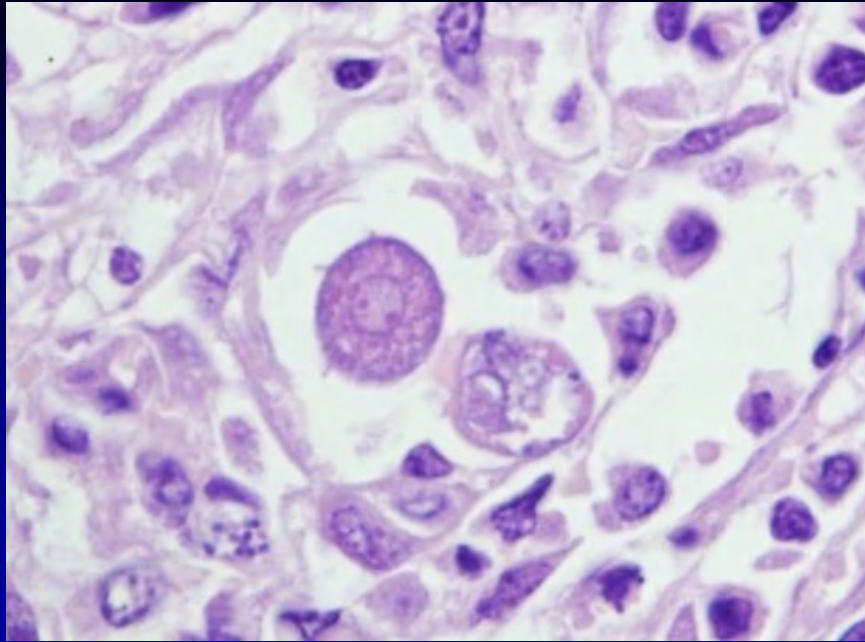




50 μ m







提出者の診断

リンパ節炎と脂肪織炎、肉芽腫性および好酸球性、巣状、中等度、病巣内に病因学的に*Halicephalobus gingivalis*に一致するラブディティス型線虫の成虫および幼虫を伴う

Lymphadenitis and steatitis, granulomatous and eosinophilic, focal, moderate with intralesional adult and larval rhabditoid nematodes, etiology consistent with *Halicephalobus gingivalis*.

JPCの診断

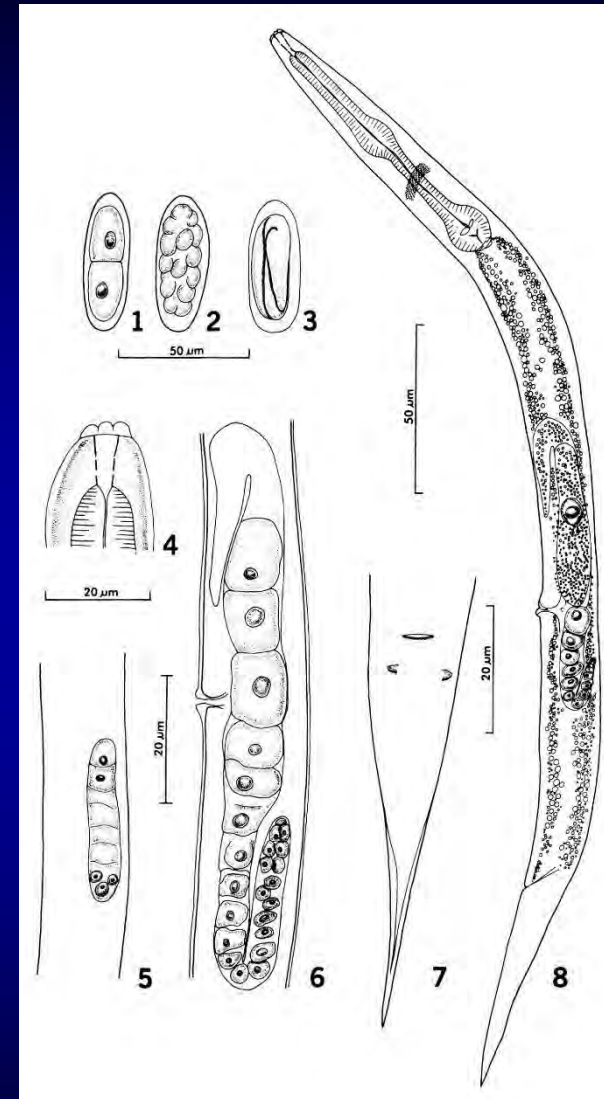
リンパ節：リンパ節炎、肉芽腫性、慢性、びまん性、重度、線虫の成虫、幼虫および虫卵を伴う

Lymph nodes: Lymphadenitis, granulomatous, chronic, diffuse, severe, with nematode adults, larva and eggs.

提出者のコメント

*Halicephalobus gingivalis*について

- ・*Rhabditida*目(桿線虫目)、*Panagrolamidae*科の自由生活土壌腐生蠕虫
- ・体長250~430 μm 、直径15~20 μm 、薄く滑らかなクチクラ層とラブディティス型食道を持つ
- 【補足】尾と生殖器官の形態が種の同定に有用
- ・病変を引き起こすのは雌成虫と幼虫のみ
- ・移動行動によって広範な組織障害を引き起こす
- ・腎臓では多数の幼虫とラブディティス型線虫、まれに含子虫卵を含む多病巣性の凝固壊死を引き起こし、肉眼的に腫瘍に似る
- ・脳炎、脊髄炎、精巣炎、骨髄炎、包皮を起すこともある
- ・感染経路については諸説あり、成虫の経口摂取、吸入、創傷感染が示唆されているほか、初乳を介した垂直感染も報告されている
- ・馬での感染例は、ヨーロッパ、南北アメリカ、日本、エジプト、韓国で報告されている



Anderson *et al.*

Parasite, 5, 255-261 (1998)

JPCのコメント

- ・ *Halicephalobus gingivalis* は非常に特徴的な形態を持ち、容易に識別可能
- ・ 他に検討すべき寄生虫

Strongylus equinus (馬円虫)

Strongylus vulgaris (普通円虫)

Angiostrongylus cantonensis (広東住血線虫)

Setaria spp.

Draschia megastoma (大口馬胃虫)

- ・ *H. gingivalis* は腎臓、リンパ節、中枢神経系に親和性が高い
- ・ 腎症状または運動失調、旋回運動などの神経学的症状を示す
- ・ *Halicephalobus* 属には9種が存在するが、*H. gingivalis* だけが動物に疾患を引き起こす
- ・ 今回の症例で、動脈内に幼虫を認めたことから、血行性の拡散が広く支持された
- ・ 組織標本では雌成虫と幼虫、虫卵だけが観察され、単為生殖の可能性が示唆されている
- ・ 感染経路を含め、病因論については大部分が証明されていない